

Tango Central Hospital

hidamari



特集1 新春特別会談

特集2 今年の抱負（巳年）



公益財団法人 丹後中央病院

〒627-8555 京都府京丹後市峰山町杉谷158-1
TEL: 0772-62-0791 <http://www.tangohp.com>

基本理念

安心・信頼・良質の医療

基本方針

- ① 患者さん中心の医療を実践します
- ② 安心して医療が受けられる、安全で快適な医療環境の形成を目指します
- ③ わかりやすい説明に基づく信頼される医療を行います
- ④ チーム医療により、良質の全人的医療を行います
- ⑤ 地域医療機関との連携を推進し、地域の医療水準の向上に貢献します
- ⑥ 救急医療、災害医療、へき地医療、難病医療などの政策医療を積極的に担います
- ⑦ 医学・医療技術の研鑽と教育・研修により、人間性豊かな医療人の育成に努めます
- ⑧ 透明性の高い健全な病院経営を行います

新しい年を迎え、私たちの病院は職員全員が手を取り合い、共に新たな一歩を踏み出します。表紙の写真では、干支の「へび」を手で表現し、私たちの団結力と地域との絆を体現しており、共に未来に向かって歩んでいく意志を込めています。

「へび」には“再生”や“新たな始まり”の意味が込められており、医療現場が進化し、地域と共に新しいステージへ進んでいく決意を示しています。

私たちは、患者さんを医療チームの重要な一員と考え、共に支え合いながら、積極的に治療や健康管理に参加していただける体制を築いています。全職員が協力し、患者さん一人ひとりに寄り添った医療を提供し、力を結集しています。

「いつもの暮らしに、いつもの安心を」

これからも地域の皆さんと共に、日々の安心をお届けしていきます。

丹後中央病院広報誌

hidamari

Vol.36

CONTENTS

- 新年のごあいさつ
- 特集1 新春特別対談
- 特集2 新年の抱負
- ロコモティブシンドロームについて
(リハビリテーション部)
- 旬を味わう (栄養科)
- 知っておきたいもちの話
(もちによる窒息への
注意喚起と対処法)
- 連携医療機関のご紹介
職場体験
- 経口気管挿管訓練・消防訓練
寄附について

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は丹後中央病院に多大なるご支援を賜り、深く感謝申し上げます。本年も変わらぬご厚情を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

Covid-19のパンデミックから5年以上が経過し、医療現場も徐々に落ち着きを取り戻しつつあります。しかし、パンデミックによる影響は今なお色濃く残っており、京丹後地域の病院もその対応に苦慮しているのが現状です。

今年も引き続き、医療全体の回復を進めていくことが重要な課題であると考えております。

京丹後地域では少子高齢化が進行し、産業や生活基盤にも大きな影響が出ています。

このような状況を克服するためには、高齢者の健康、とりわけ健康寿命の延伸が不可欠です。

そのために、検診の普及、疾患の早期発見、そしてリハビリテーションの充実が大きな役割を果たすと考えています。当院をかかりつけ医として信頼してくださる患者様が70%を占めており、地域の健康維持の砦としての役割を担っています。

さらに、当院は最新の医療機器を備え、循環器内科、消化器内科、消化器外科、整形外科をはじめとする多数の専門医が揃い、地域内での治療完結を目指しております。

また、高度先進医療を提供する病院との連携の窓口としての役割も重要視しており、患者さんへの情報提供にも尽力しております。これからも京丹後地域の基幹病院としての責任を果たすため、職員一同、力を合わせて努力してまいります。

本年も、丹後中央病院へのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

代表理事 中村 孝志

あけましておめでとうございます。

今年も無事に新しい年を迎えることができました。丹後地方も、全国を上回る人口減少、高齢化の波に襲われております。世間からは、出産可能な年齢の女性数の減少から、将来無くなる都市に指定され、京都府からは、住民、医療従事者の高齢化が進む医療地域に指定され、十分な医療提供ができるか心配されるようになりました。非常に厳しい時代です。

丹後中央病院は、今まで通り、通常の疾患では、京都、大阪などの遠方に通わなくても、自宅で、今まで通りの生活をしながら、都会と劣らない医療を受けることができることを目標として、日々の診療に頑張っております。

住民の皆さんの健康、生命、生活を守る信頼される病院であり続けられるように、日々、新しい医療知識を取り入れ、時代遅れにならないように、患者様のためになる最新の医療を提供できるように研鑽してまいります。

患者様の笑顔とともに前進していく丹後中央病院を心がけますので、かかりつけ病院として、末永くよろしくお願い申し上げます。

病院長 藤田 眞一

新春特別会談



紫野

和久傳



丹後中央病院

食と健康が織りなす 幸せの瞬間



今回会談していただいたのは—

株式会社紫野和久傳
代表取締役会長

くわ むら あや
桑村 綾

1940年京都府宮津市生まれ。1964年に丹後峰山の料理旅館「和久傳」に嫁ぎ、1982年に京都市内で料亭「高台寺和久傳」を開店。2007年に「和久傳ノ森」で植樹祭を行い、2008年に京丹後久美浜工房、2015年に第二工房を竣工。2017年には「森の中の家 安野光雅館」を開館。主な受賞歴に「日本緑化センター会長賞」（2013年）、「京都創造者大賞」（2016年）、「地域未来牽引企業」選定（2017年）、「京都府あけぼの賞」（2018年）、「ジャパントイムズ Sustainable Japan Award」優秀賞（2024年）がある。

丹後中央病院 副院長
循環器内科 兼 人間ドック健診室長

かわ しま つね あき
革嶋 恒明

京都大学で医学博士号を取得。日本循環器学会認定循環器専門医、日本内科学会認定総合内科専門医・指導医として、幅広い内科診療に対応する専門性を有する。また、検診マンモグラフィ読影認定医師や人間ドック健診専門医・指導医、日本医師会認定産業医として、予防医学や職場健康管理にも尽力。現在は丹後中央病院副院長を務め、地域医療の中核を担いながら、患者一人ひとりに寄り添う医療を実践している。



紫野和久傳様にて貴重なご会談の機会をいただきました。

本日は、丹後中央病院の医師である革嶋先生と、京丹後の老舗・和久傳の桑村さんをお迎えし、新春特別対談をお届けします。テーマは「食と健康が織りなす幸せの瞬間」です。京丹後地域の豊かな自然が育んだ食文化と、地域医療を支える丹後中央病院のコラボレーションについて、健康と美食の視点からお話しいただきます。まず、桑村さん、和久傳が丹後の地で代々大切にしてきた「いただいた御恩をお返しする」という想いについてお聞かせいただけますか？

桑村 和久傳がこの地で明治三年から続けてこられたのも、地元の皆さまとのご縁に支えられているからです。この豊かな自然に育まれた食材を通して、丹後の美しさや風土の力を感じていただきたいと思っています。特に、この地の漁師さんや農家の方々が心を込めて育てた食材には、手仕事や暮らしが込められています。食を通じてお返しをすることは、私たちにとって恩返しであり、地域の魅力を伝える役割でもあります。

革嶋 なるほど、紫野和久傳のお料理は、食の粋を超えて、地域の文化や人々の思いを伝えるものになっているのですね。

桑村 はい。私たちは食材に込められた地域の思いを大切にしながら、一つひとつの料理を心を込めて作っています。丹後の自然の豊かさを、ありのままお客様にお伝えできたらと願っています。

和久傳のお料理に込められた深い想いが、さらに実を結ぶプロジェクトがあるとお伺いしました。丹後中央病院では、来年度より人間ドックの受検者に和久傳のお食事を提供するプロジェクトが始まるとお聞きしました。革嶋先生、この企画の狙いについて教えていただけますか？

革嶋 はい。丹後中央病院は、地域の皆さまに「安心して健康を支えられる存在」でありたいと考えています。このプロジェクトでは、人間ドックでの検査以外に、和久傳のお食事や自然を通じて心からの安らぎを感じていただきたいと思います。和久傳の料理には、地元の力が詰まっていますし、その味わいが健康の大切さを感じるきっかけになることを願っています。

心温まるお話ですね。桑村さん、このプロジェクトでの和久傳のお料理に対するお気持ちをお聞かせください。

桑村 私たちは、この地でいただいているご縁を通して、少しでも地域の皆さまにお返しできることを嬉しく思います。食は人々に笑顔と元気を与える力があると信じています。このプロジェクトを通じて、受検者の方々にも丹後の豊かな食材とその力を味わっていただき、体と心を満たす料理をお届けしたいと思っています。食がもたらす「幸せの瞬間」を感じていただければ幸いです。





革嶋 食の持つ力は、心にも大きな影響を与えるものです。丹後の自然の恵みと守られてきた食文化が結びつくことで、「食と健康のめぐりあわせ」が生まれると思います。

「食と健康のめぐりあわせ」、素敵な表現ですね。地域が織りなす食材と医療が結びつくことで、人々に新たな活力が生まれるのですね。

桑村 そうですね。私たちは丹後の土地に根ざした食文化を育ててきました。時代は変わり、経営環境も厳しくなってきましたが、「丹後から出て行かないでほしい」と地域の方々から支えられながら、この地で恩返しをしていきたいと考えています。京都市内に料亭を出した際も、地域の皆さまの支援があったからこそです。今も恩を返す気持ちを大切にしています。

革嶋 和久傳さんが京都で料亭を始める際、丹後地域で署名運動が起こったという話は印象的です。地域に根ざした活動を続けられてきたのですね。

桑村 はい、まさに地元の皆さまとのご縁があつてこそです。京丹後の人々とともに歩んできたからこそ、今もこうして支えられているのだと思います。恩返しを続けることが私たちの使命だと考えています。

革嶋 和久傳さんのそのような精神が丹後中央病院の医療と結びつき、地域全体に新たな活力をもたらしていくことでしょう。このプロジェクトが、地域の皆さまの心と体に喜びをもたらす機会になることを願っています。食と健康のつながりを深め、地域医療がさらに充実することを期待しています。



最後に、桑村さん、革嶋先生、プロジェクトを通じて読者の皆さまに伝えたいメッセージをお願いします。

桑村

健康は、体だけでなく心が豊かであることも大切だと思います。和久傳のお料理や自然を通じて、皆さまがリラックスし、丹後の自然が育んだ幸せの味わいを感じていただけたらと思います。このご縁が、皆さまの心と体に力を与えるものになればと願っています。

革嶋

食と医療の協力で、一人ひとりの心と体に喜びと健康を届けられるように努めていきます。

紫野和久傳の美味しいお料理や自然を味わえるこの特別な機会を、ぜひ多くの方に楽しんでいただきたいと思います。本日は貴重なお話をありがとうございました。

このプロジェクトでは...



丹後中央病院の人間ドックを受検した後、紫野和久傳のお料理をお楽しみいただけます。静かな鎮守の森に囲まれた空間で、安藤忠雄先生設計の美術館や安野光雅先生の絵画を鑑賞しながら、丹後の風景とともにリラックスしたひとときをお過ごしください。健康チェックとともに、地域の文化と美味・自然を体験できる貴重な機会をぜひお楽しみください。

(※本対談は2024年11月に行われました)



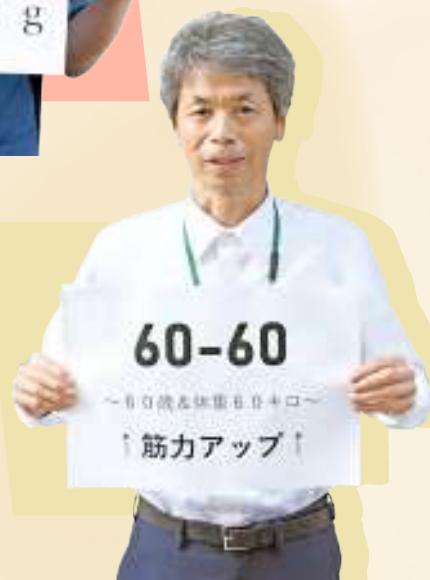
和久傳ノ森
ホームページ



森の中の家
安野光雅館



丹後中央病院
人間ドック



巳年の職員に聞きました。

巳年のスタート

職員が誓う新たな一年



身体をいたわり
頑張ります

資格取得

毎日の一歩一歩を
大事にせよ

健康

桜
梅
桃
李

肉体改造

燦



ロコモティブシンドロームについて

わかりやすい体操・ヒトケアシリーズ 特別編

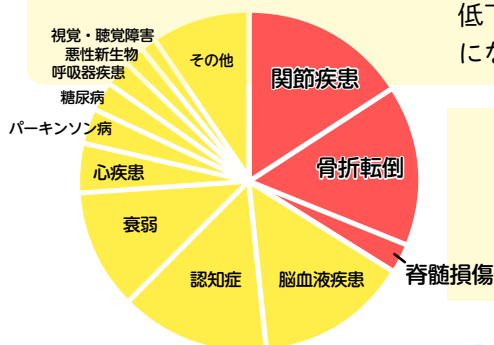
講演会「歩き続けられる社会を若者とともに」

2024年9月29日に丹後中央病院主催で講演会「歩き続けられる社会を若者とともに」を開催しました。京都大学大学院医学研究科の青山朋樹教授とinochi Gakusei Innovators' Program 2024 KANSAIの学生たちをお招きして【ロコモティブシンドローム】をテーマに講演と実演を行いました。

ロコモティブシンドロームとは

運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態をいいます。

英語で移動することを表す「ロコモーション (locomotion)」、移動するための能力があることを表す「ロコモティブ (locomotive)」からつくった言葉で、移動するための能力が不足したり、衰えたりした状態を指します。立つ、歩く、作業するといった運動のために必要な身体の仕組みを運動器といい、運動器は骨・関節・筋肉・神経などで成り立っています。これら組織の障害によって、立ったり歩いたりするための身体能力が低下した状態がロコモティブシンドロームであり、進行すると将来介護が必要になるリスクが高くなります。



要支援、要介護になる原因は...

転倒、骨折や関節の病気など運動器の障害！

要支援、要介護の要因 厚生労働省2022年国民生活基礎調査



青山朋樹 教授

京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻

青山朋樹 教授 による講演

日本人の平均寿命：84.3歳（世界一）
日本人の健康寿命：74.1歳（世界一）
→ 平均寿命と健康寿命の差 10.2歳（世界33位）
→ なんらかの障害を持って生きていく時期が長い。

全てを医療福祉システムで対応は不可能→【**予防医療が重要**】

健康行動を定着させる 3 要素

- ① 自覚：ロコチェックなどで自分の状態を知る
- ② 実践：運動を行う
- ③ 継続：体操教室や仲間とともに目的をもって行う

この3要素を守り、予防活動が盛んな地域は転倒が少ないと言われています。地域から介護予防の取り組みを始めていきましょう。

ロコモはどのように進行するのか？

骨
関節軟骨/椎間板
神経/筋肉

骨粗鬆症・骨折・神経障害
変形性関節症・変形性脊椎症
脊椎管狭窄症・サルコペニア

痛み/痺れ
関節可動域制限
柔軟性低下
姿勢変化
筋力低下/麻痺
バランス能力低下

移動機能の低下
(歩行障害)

生活活動制限
社会参加制限
要介護



ロコモティブシンドロームの評価である立ち上がりテストや2ステップテスト、ロコモ25評価チェックを参加者の方に実際に体験してもらいました。

inochi Gakusei Innovators'
Program 2024 KANSAI

学生さんによる体操の紹介

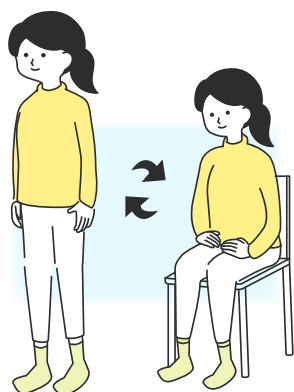


大学生と高校生が運動方法について説明し、参加者の方々と一緒に体操を行いました。

立ち座り

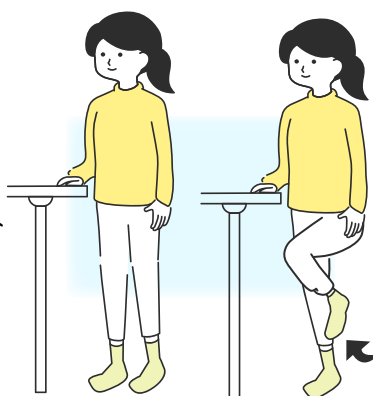
- ・立つ→座るを1セットとして5セット行う

※体がふらついたたりした時は無理せず机に手をついてもOK



片脚上げ

- ・机に手をついて、片足ずつ上げる
- ・足を上げる→下ろすを1セットとして5セット行う



今回の講演会をきっかけとして、今後も健康に関する情報を地域に発信していきたいと思います。
ぜひ一緒に介護予防をしていきましょう。



次回は、『転ばぬ先の〇〇』です。

旬を

おせち料理

おせち料理の起源は、季節の節目に神様へ感謝を伝える「節供（せちく）」という風習にあります。収穫物を神様に供え、それを料理した「御節料理」が、おせち料理の原型とされています。現在の重箱に詰めるスタイルは、江戸時代末期から明治時代にかけて定着しました。戦後には保存が効く食材を使い、華やかで家事を休めるための正月料理として親しまれるようになりました。



おせちの重について

おせちの重とは、日本の伝統的な正月料理である「おせち料理」を盛りつけるために使われる層状の箱のことです。五段重は豪華で縁起が良いとされ、それぞれの段に異なる意味が込められています。

一の重 不老長寿・子孫繁栄・家内安全

最初に開ける段で、お祝いの場にふさわしい酒の肴を詰めます。不老長寿、子孫繁栄、家内安全を願う「祝い肴」が中心です。関東では「田作り」、関西では「たたきごぼう」が加わり、地域ごとに異なる祝いの品が含まれます。



黒豆
「健康、邪気払い」



田作り
「五穀豊穡」



数の子
「子孫繁栄」



たたきごぼう
「家族・稼業の繁栄」

二の重 学業成就・喜び・財産など

「甘いものを中心とした「口取り」や「酢の物」が詰められており、箸休めの役割も果たします。見た目が華やかで、甘く味付けされることで日持ちが良く、お正月料理として重宝されています。



昆布巻き
「喜ぶ、子孫繁栄」



伊達巻
「学業成就」



栗きんとん
「金運を呼ぶ」



かまぼこ（赤）
「喜び・日の出」
かまぼこ（白）
「神聖・日の出」

三の重 出世・不老長寿・夫婦円満など

縁起の良い食材やお祝いにふさわしい豪華な料理を詰める段です。鯛や海老などの海の幸を彩りよく詰め、華やかな見た目を演出します。



鯛(ぶり)
「出世」



鯛(たい)
「めでたい」



海老(えび)
「長寿」



鮑(あわび)
「不老長寿」

与の重 無病息災・末広り・家運向上など

野菜を中心とした「煮物」が入ります。「家族の絆」を願う意味が込められており、たくさんの具材と一緒に煮ることで、家族の団結を表現しています。なお、四を避けて「与の重」とされています。



れんこん
「将来への明るい見通し」



くわい
「子孫繁栄」



手綱こんにゃく
「良縁・縁結び」



たけのこ
「子どもの健やかな成長・立身出世」

五の重 空箱（神様からの福を授かる）

「神様からの福をいただく」意味で空箱にしておく段です。食べ物を詰めずに、将来の繁栄・発展の余地を表現しています。地域によっては、入りきらなかった料理を入れることもあります。



新春を彩る 心温まるお食事



新年を迎える喜びを感じていただけるよう、1月1日と2日の朝食におせち料理をご提供しています。煮物やなますなどを取り入れ院内でもお正月の彩りを味わっていただけるよう、毎年心を込めて工夫を凝らしています。



黒豆

伊達巻

田作り

酢れんこん



千枚漬け

たたきごぼう

海老しんじょう



長芋の酢の物

三日とろろ

三日とろろとは、お正月の3日目である1月3日に、長芋や自然薯をすりおろしたとろろ汁やとろろごはんを食べる風習のことです。当院では、1月3日に長芋の酢の物を提供しています。

年明けうどん

純白で清楚なうどんを年の初め、（元旦から1月15日まで）に食することで、新しい年の到来を祝い、人々の幸せを願うとされています。当院でも、1月15日までに献立に取り入れています。



小正月

小正月は、1月15日ごろに行われる行事で、地域によっては14日から16日までを指します。別名「女正月」とも呼ばれ、年末年始の行事で忙しく働いた女性たちが休息を取る時期としての意味があります。

一部地域では、小正月に「小豆粥」を食べる習慣があり、これはぜんざいと同じく1年間の健康を祈る行事食です。

当院では、1月15日に小豆粥や小豆を使ったデザートを提供しています。



小豆粥

もち

による窒息への 注意喚起と対処法



お正月や祝いごとでよく食べられるもちですが、
毎年多くの**窒息事故**が報告されています。

特に高齢者や幼児はもちを飲み込む際に注意が必要です。
ここでは、もちによる窒息の予防方法と、万が一詰まってしまった場合の対処法をご紹介します。

日本では、もちによる窒息事故は主に1月に多発しています。特に正月の三が日に集中し、1月1日に最も多く発生しています。正月に食べられる「雑煮」には、日本の伝統食であるもちが含まれており、このもちが窒息の主な原因として知られています。



もちを食べる際の注意点

小さく切る

食べやすいサイズにすることで、
窒息のリスクを減らせます。

喉を潤す

お茶や汁物を飲んで喉を潤してから
食べましょう。ただし、よく噛み
まずに飲み込むのは危険です。

一口の量を少なめにする

一度に食べる量を無理のない範囲
にしましょう。

ゆっくりよく噛んで

もちをしっかりと噛んでから飲み
込みましょう。

周囲の見守り

特に高齢者が餅を食べる際は、
周囲の人が見守ることも重要です。

食事中は会話を控える

食事に集中し、誤って飲み込まな
いようにしましょう。もちを食べ
る際には、テレビや会話を控える
のも一つの方法です。

万が一、窒息が起こった場合の対処法



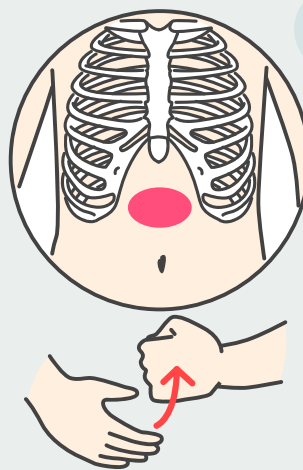
1. 反応を確認する

もちが喉に詰まった場合、まずは相手に声
をかけて意識があるか確認します。意識が
あれば、咳をさせることが第一です。



3. すぐに救急車を呼ぶ

もちによる窒息は短時間で命に関わることもあるた
め、速やかに119番に連絡しましょう。特に高齢者は数
分で意識を失う可能性があるため、応急処置と同時に
救急隊の到着を待ちましょう。



2. ハイムリック法

咳ができない場合や詰まりが取れない場合、腹
部を強く押し上げる「ハイムリック法」を試み
ます。背後から抱え、拳をみぞおちに当てて上
に向かって強く突き上げる動作です。

地域の皆さまにより良い医療を…
連携医療機関のご紹介



つながるリレー



たんご協立診療所



公益社団法人京都保健会 たんご協立診療所

内科 小児科 外科 整形外科
放射線科 リハビリテーション科

〒629-2502 京丹後市大宮町河辺3368-1

電話 0772-68-5017 FAX 0772-68-5035

在宅診療、ワクチン接種、喫煙外来 実施
処方 院外処方

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	○	○	○	○	○	※	—
午後 予約制	ワカ	—	ワカ	—	—	—	—
午後 5:00～ 7:00	○	—	○	—	○	—	—

※ 第2・第4土曜日は休診

○たんご協立診療所の紹介

たんご協立診療所は1998年（平成10年）7月、地域のたくさんの皆さんの協力を得て開設され、無差別・平等の医療を掲げて、無料低額診療事業にも取り組んでいます。法人内のすべての病院は差額ベッド代を徴収していません。外来診療に加えて、在宅診療にも力を入れて、訪問看護ステーションゆたかのとも連携して在宅での看取りも行っています。

また丹後健康友の会と協力して健康まつりや医療懇談会、患者さんの送迎、相談活動等にも取り組んでいます。何でもお気軽にご相談ください。

○さいごに

ご存知のように、この地域は過疎、高齢化が進行し、医師、看護師不足も深刻です。私も一人医師体制で診断や治療に悩むことも多々ありますが、丹後中央病院は患者紹介や救急要請にいつもしっかり応えて頂き、本当に助かっています。また、紹介患者さんに関しては後日丁寧な情報提供を頂き大変勉強になります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



丹後中央病院

たんご協立診療所

病院長 藤田 眞一先生

川崎 繁先生

川崎 繁 先生

たんご協立診療所所長の川崎繁です。私は、京都府舞鶴市生まれで、大学は北海道大学なので、学生、その後の医師生活を含め12年余り北海道で暮らしました。1983年（昭和58年）綾部に綾部協立病院が開設される時、外科医として招かれ、その後、京都協立病院、ふくちやま協立診療所等を経て、2015年（平成27年）からたんご協立診療所に勤務しております。もとは外科、整形が専門ですが、診療所では内科、小児科問わず、幅広く患者さんに対応できるよう努力しています。



趣味は囲碁で、もっぱらネット碁ですが、週末とかに基仇と打って、その後飲みに行くのが楽しみです。旅行や食べ歩きも好きで、丹後地域は美味しいお魚、お酒、それに温泉も豊富で楽しんでいます。



職場体験を実施しました

大宮中学校・峰山中学校の2年生が、当院で職場体験を行いました。看護部、リハビリテーション部、栄養科など7つの部署をそれぞれ2日間かけて巡り、医療現場の仕事に触れていただきました。生徒たちは「患者さん一人ひとりを大切にすることが大事だと感じた」「大変だがやりがいのある仕事だと思った」などの感想を寄せてくれました。この体験が未来への一歩になれば幸いです。



高性能CPR トレーニング人形を用いた 経口気管挿管訓練を実施

この度導入された高性能CPRトレーニング人形「セーブマンスタンダード」を用い、研修医を対象に経口気管挿管を中心とした手技訓練を実施。この機材は換気量モニタリングや片肺閉塞のシミュレーションが可能で、挿管後の気道管理や食道挿管の確認も可能。バグバルブマスク換気の実技を通じ、座学では得られない実践的な工夫を学びました。今後も訓練を継続し、緊急対応力とチーム医療の向上に努めてまいります。



消防訓練を実施しました

11月14日、秋の全国火災予防運動週間にあわせ、患者さまの安心と地域の安全を守るために、丹後中央病院自衛消防本部隊の指導のもと、初期消火および避難誘導訓練を実施しました。

訓練には、消火設備操作の未経験者や入職3年未満の職員、非常時の対応が求められる職員、自衛消防隊員が参加し、各自の役割を理解しながら協力して行動することを目指しました。こうした訓練を通じて、非常時においても職員が迅速かつ正確に対応できるよう、日々備えを重ねています。

当院は、安全を最優先に考え、患者さまや地域の皆さまが安心してご利用いただける医療環境の提供に努めています。今後も引き続き、安心・安全な環境づくりのため、積極的に訓練を実施してまいります。



寄附・寄贈をいただきました ご支援いただきありがとうございます

岸本 英雄 様

寄付金 500,000円
(令和6年8月)

当法人の公益事業のために役立てます。

その他にも寄付金や長下肢装具の寄贈のご支援をいただきました。



寄附について
詳しくはこちら

ご寄附の
お願い

丹後中央病院では、充実した医療を提供し地域に貢献していくため、企業や個人の皆様方から幅広く寄附金を受け付けております。
皆様からいただきました寄付金は、申込書の使途に従い有効に使用させていただくほか、医療体制充実のための医療機器や備品の購入に充てさせていただきます。
当院の運営のために、格別のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。